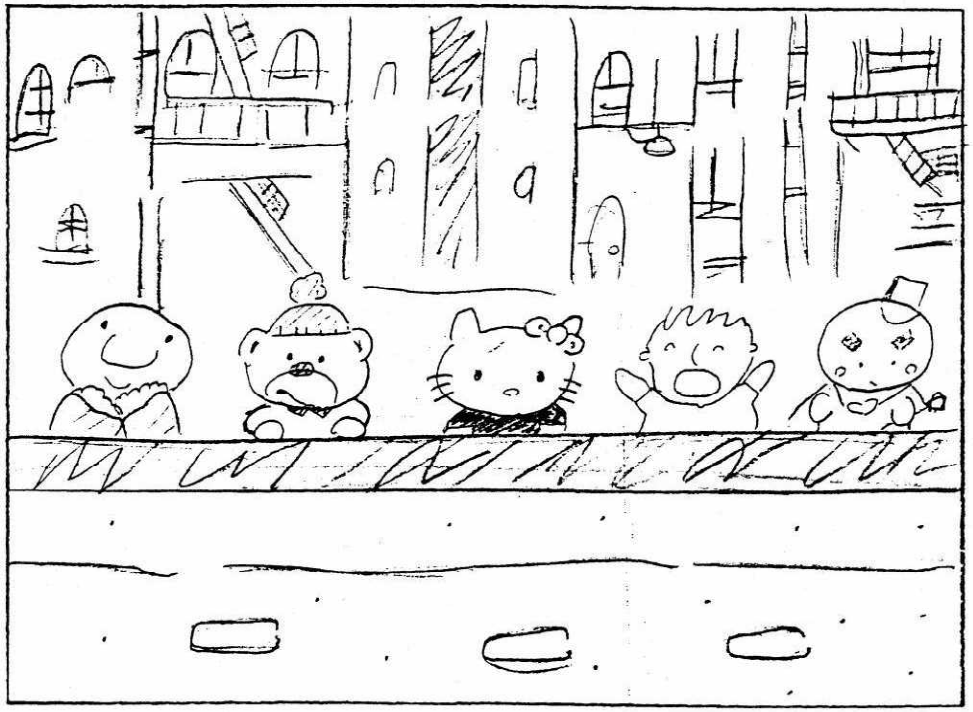
木下川の子ども



１９５７年度

～

１９８６年度

2年

一九五七（昭和32）年度

うそ

もうせんぼくはかみしばいがきたので

おかあさんにおかねを十円もらいました。ぼくは、ソースせんべえをかいました。きょうのかみしばいはがんちゃんとゆうだいで、とてもおもしろいでした。かみしばいがおわったあとで、かんかんあめがきました。そして、おかあさんにまた、十円もらいました。おかあさんが、「おせんべえしか、かっちゃだめだよ。」と、いいました。ぼくは「うん」といいました。ぼくはうそをついてかんかんあめをかいました。ぼくは、うちへかえるとみつかるから、はらっぱでたべました。たべたあとで、うちにかえりました。うちへかえってから、おかあさんが「ちょっと。」といったのでぼくはいってみました。「小三郎、おまえ口にあめがついてるよ。」かんかんあめをかったね。」といいました。かんかんあめをかったことがわかりました。「小三郎あめはかった

っちゃだめだよ」といったのにといって、ぼくは、おこられてしまいました。

一九五八（昭和33）年度

うちのとり

うちのとりはいつもけんかをしています。ときどきとりどうしでちをながすことがあります。わたしがえさをやりに行くと、とりはとりごやの戸のまえをあっちこっちまごまごして、わたしのくるのをまっています。

そしてわたしがえさばこにえさをいれてやると、えさばこをひっくりかえしてえさをこぼしたりします。わたしのかおを見ながらえさをたべています。とりごやから出してやると大よろこびで外に出てあそんでいます。わたしのげたの上にのって、はねをばたばたひろげて「ココ、ココ」となくのです。わたくしはうちのとりはおりこうさんだなあと思います。

一九五九（昭和34）年度

ぼくのしごと

ぼくは、あさはやくおきてじぶんのちゃわんをあらいます。それから、ぼくは、きちんとかばんを、せおってがっこうへいくのです。それからぼくは、がっこうからかえっていく。

「ただいま。」というとおかあさんが、「おかえりなさい。」といったのでぼくは、かばんをおいてあそびにいきました。それからあそんでいたら、きゅうに、ねむくなってじぶんでおかあさんが、にかいではたらいているうちに、ふとんをしいてねました。

一九六〇（昭和35）年度

十月二十二日

ぼくは、先生おこられました。ぼくは、なんでこんなにきかないんだろう。くせにでもなったのかなあ。

一九六一（昭和36）年度

友だち

このあいだ、ぼくの友だちがひっこししてしまいました。ひっこししたのは日よう日です。よこはまの方へいってしまったのです。

お正月、年がじょうがゆうちゃんからきました。

〝まあちゃん あや子ちゃん 明けましておめでとうございます。〟とかいてありました。ぼくもそのてがみを読んで、すぐ書いて出しました。そのゆうちゃんが、ひっこししたのでぼくはさみしい正月でした。

いまは、えざわくんが友だちです。まえのゆうちゃんは、まだぼくらが学校にあがらないまえからのお友だちでした。ゆうちゃんはぼくよりべんきょうができます。ゆうちゃんのうちの子どもが、まあちゃんとよぶときがよくあります。ぼくはよくその子のことをなかすときがあります。

よくゆうちゃんとぼくはかけっこをし

ます。でも、ゆうちゃんのほうが早い。ぼくはふとっているからです。五さいのときは、ぼくの方が早かったのですが、いまでは、ぼくの方がおそい。そのゆうちゃんが、いまはひっこししてしまいました。

読書感想文

一九六二（昭和37）年度

「まりちゃんとひつじのぱたぱたん」をよんで

まりちゃんのうちは、びんぼうだから、かわいそうだとおもいました。

くつした一足かえないのではだしなのです。でも、ぱたぱたんが、あかちゃんを、どんどんうむので、そのけを、うることになったが、そのけは、まりちゃんにしかあわなくて、うれないのです。だから、わたしは、なにかあげたくなりました。

でも、本なので、わたしは、ざんねんだと思いました。

一九六三（昭和３８）年度

おつかい

ぼくはよる、おとうさんのたばこをかいにいきました。

おとうさんは、ハイライトをかってきてとたのみました。

「かえりに十円つかってきてもいいよ。」

といいました。

ぼくはたばこやさんにいきました。そしておかしやにもいきました。

ぼくはあいすをかいました。

まがりかどにいくと、いぬがもんからでてきて、あいすをとろうとしたから、にげました。

だけどまだおいかけてきます。

だからあいすをおもいきりとおくのほうへ、なげました。それでいぬがあいすをおいかけていきました。そのすきににげました。

そしてようやくうちにつきました。

一九六四（昭和39）年度

町工場の仕事

ぼくの家は、かわをなめすおしごとをしています。なめすかわは、いなかののうかの人が牛やぶたやうまなどをかって大きくしてから、とさつ場でかわをはがされ、ぼくの家へおくられてくるのです。

そのときみると、赤いちがついているのでかわいそうだなあーとときどきおもいます。

そのかわをぼくの家でなめします。一ばんにぬきとります。その毛はきれいにあらってから水につけよくあらい、かわのうらについているあぶらをほうちょうでけずりとります。そして、かわがくさらないようにしおづけしてあるものは、よく水であらいおとします。つぎに、かわについている毛をぬくためにいしばいのはいっている水の中へ、一しゅうかんから十日ばかりつけます。そのあいだは、まい日「トロッペ」といってかわをうごかします。それからかわについている毛をきれいにぬきとります。その毛はきれいにあらってか

わかしてうります。

その毛はハブラシなどにつかわれます。

つぎは、毛をぬいたかわは、きかいであつさをそろえてうすくすきます。そして、かわにしみこんでいるいしばいをぬくためドラムの中へかわとくすりを入れてまわします。

つぎはクロームなめしというしごとにうつります。それはドラムの中へネオクロームというくすりを入れ八時間ぐらいまわします。

そのかわを、あくる日だして、水でよくあらってていろいろな色にそめます。そめたかわを、かわかすのに一まい一まいぼうにかけてにかいへつるします。そのとき色がついているかわだととってもきれいです。

また、たくさんのかわがぶらさがっていると、ぶたがこんなにいるのかなあとおもうことがあります。

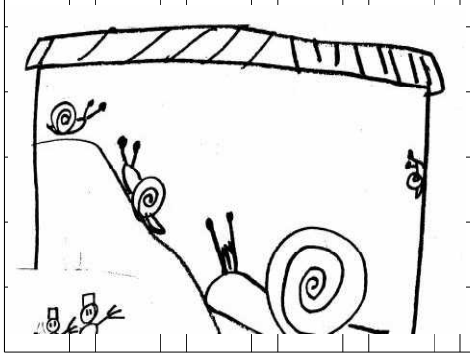
つぎは、そのかわいたかわをまたドラムに入れ、よくもみやわらかくします。だからぼくの家は、一日中あさからよるまでドラムが

ゴーゴーと、まわっています。つぎは、よくやわらかくなったかわを、かんそうきという大きなはこのようなきかいで、一まい一まいあみの上へはって、かわかします。

それで、クロームというかわのできあがりです。

「そのできあがったせいひんはなんにつかわれるのですか」と、おとうさんにきいたら、「くつなどのうらかわにつかわれる」といいました。

またよくできあがったものは、とおくがいこくへもうられていきます。ぼくはおとうさんやこういんさんたちがまい日こうばではたらいているのをみると、かわができあがるまで、たいへんだなあとおもいます



一九六五（昭和４０）年度

町づくりのねがい

ぼくのうちの前のどての工じはもうおわりました。あたらしいどては、コンクリートで、前にあった草はとられてしまいました。ぼくのうちをちょっとあら川えきの方へ行ったところは、まだ工じをさかんにやっています。あたらしいどてができる前のことです。たいふうの時、どての方から水がうちへ入ってきて、とてもこまりました。たいふうでなくても雨がふるといつも、どろ水がながれてきます。ぼくは、はやくこのどてができあがってどうろになればいいなあ、と思いました。でももうへいきです。どてがあたらしくなって、どうろになるのですから、ぼくは、どての上をバスがとおる日をまっています。

一九六六（昭和41）年度

うちのねこ

きょうはうちのねこがひさしぶりにはやおきしました。いつもはすやすやねているのにきょうだけはおきました。ぼくが本を見ているとねこがニヤオニヤオとないて本にのりました。ぼくは

「こら、やめないか。」

といってもやめません。しまいにぼくはおこりだしてしまいました。げんかんまでつれてきてぼくはねこに

「いけよ。いかないきか。」

といいました。そしたらねこがおこってぼくの足をひっかきました。ぼくが

「いたい。いたい。」

といっているうちにねこがにげてしまいました。ぼくが

「おにいさん、おかあさんよんできてよ。」

といったらおにいさんが

「よしよんできてやるよ。」

といってくれました。おにいさんがおかあさんをよんできてくれたのでおかあさんがぼくにてあてをしてくれました。その夜ぼくがねるころニャオニャオというなきごえがしました。ぼくはねこだろうと思いました。ぼくのかんはあたりました。やっぱりねこでした。ねこはくたびれたようなかおをしていました。

おばあちゃんの手

一九六七（昭和４２）年度

わたしは、おばあちゃんの、手をみました。細いほねばっていました。そしてそのうえに、しわだらけでした。なんねんもはたらいたからです。おばあさんだからです。それにくらべるとわたしの手は、やわらかい手です。そしておばあさんは、みみがきこえないのです。わたしは、いつも大きな声でいいます。いつも、水を、いじっているからです。おばあち

やんは、いつも夜に、なると「手が、いたい」といいます。わたしは、おばあさんが、手が、いたかったら「いしゃへ、いけば、どうなのよ」といいました。おばあちゃんは「いいのよ」といいます。

一九六八（昭和43）年度

こくご

わたしは、がっこうへ、行くのをいつもたのしみにしています。なぜかというと、わたしは、こくごが大すきだからです。がっこうのこくごのじかんになると、いっしょうけんめいに、先生のお話をきいて、そのこたえをかんがえます。

だいたいのこたえはわかるけど、「ひこうきにのった。」というところのこたえはあまりわかりませんでした。

こくごの中でもにがてなものがあるからかもしれません。そのにがてなものはさくぶんですだからさくぶんがかきかたのようにす

らすらできたらどんなにうれしいでしょう。だからわたしはいつもさくぶんのことばかりかんがえています。でも、いっしょうけんめいかんがえながらやってもできないのなら、にがてなままでもいいと思います。でもやっぱりさくぶんだけはうまくなりたいです。だからこくごのじかんがたのしいです。

おねえさん

一九六九（昭和４４）年度

うちのおねえさんは、うんどう会で走る時には、いろが黒いのでよく見えます。それからおねえさんは、ふとるからといってごはんやふとるものはあんまりたべないといっているのに、いつもいっぱいたべています。けんかをするとおねえさんがいつもおこられています。けんかをしない時は、なかよくあそんでいます。おねえさんは、わらいじょうごで

す。とこやのバリカンでうしろのくびのちかくの毛を切っているとわらうのです。

一九七〇（昭和45）年度

おとうと

わたしのおとうとは、四さいです。なまえは正義です。正義はきかなくてわたしのもっているものをすぐほしがります。正義はかぜをひいていまおいしゃさんにかよっています。ねつを出した時はいたずらなおとうとでもかわいそうになります。色が白くてわたしとはんたいです。ねている時だけかわいいので、おかあさんに言ったら、「二人だけのきょうだいなのだからなかよくしてね、。」といわれました。でもなかなかなかよくできません。おとうとはうちの王さまです。

一九七一（昭和46）年度

おかあさん

うちのおかあさんはいつもはたらいています。ひまなときはいつもひるねばかりしています。ときどきバトミントンや本をよむときもあります。けどやすみの日は、わたしのいうことをきくこともあります。そんな日は、おかあさんのかおもにこにこしています。やすみじゃないとき、わたしがだいどころにいくと「じゃまだからうちへいっていなさい。」とおこります。だからいつも夜になるとわたしはいもうとといっしょにテレビをみます。夜になっておかあさんはかえってきます。おかあさんはいち日中はたらいてたいへんだとおもいます。家の中でおかあさんとこたつでおかしをたべたりまるのがわたしはすきです。だからおかあさんも、「もっと休みがおおければいいのにね。」とはなします。おかあさんがはたらいている時はいいにおいがしてきます。おかあさんは、「今、手がはなせないか

らおすしでもとってたべなさい。」という時もありません。そんなとき私はやなきもちがします。おかあさんはどんなきもちかわからないけど手もはなせないくらいいそがしそうです。おかあさんは私よるおっちょこちょいだから、いつけがをするかわかりません。

一九七二（昭和47）年度

せんせいへ

せんせい、六年生までずうっといて下さい。

それに、みんなが百点になるまでがんばってテストをだしてくださいね。これからもっとがんばってくださいね。

一九七三（昭和48）年度

おもちをたべたこと

うちではあおもりや、かいしゃのおばさんにもらったりしているからおもちがいっぱいです。たるが二こあったからそれにみずをいれておもちをいれておきます。まだおもちが

あまっているからもうひとつのたるにいれてぎりぎりでした。そしてあさは、まいにち、おもちです。でもおそくおきると、おもちじゃなくてパンとここあです。だからまいにちおもちがたべたいからはやくおきます。そして日ようびのあさはかぞくでおもちをすとうぶでやいてできあがったら、おしょうゆをおさらにいれておもちにしょうゆをつけてたべました。でもうちのいぬがほしがっていたのでおもちをあげました。きょうは一日たのしかったねとおかあさんにいってねました。

一九七四（昭和４９）年度

かわいそうだったこと

きのう、わたしが学校からかえってきてから、そろばんにいって、あじさいこうえんの前にきたら、女の子がオーバーをきて、ぶらんこにのってて男の子に、「雪女」と、いわれていたのでした。わたしは、かわいそうだ

ったのです。それに、そろばんの時間も、まあだまあだ、おそいからあそんでいきました。そしてその女の子とあそびました。名前はしらないけど、かわいいかったです。「お家どこなの」と、わたしはききました。そしたら、「平井のほう」といいました。「おかあさんは」とわたしはききました。「わたしのお家よ」、と女の子は、いいました。「どうして、きたの」と、わたしはききました。「わたしのお友だちときたの」と、おんなのこはいいました。「だったの」と、わたしはいいました。「どうして、お友だちと、かえらなかったの」と、わたしはいいました。「お友だちは、おかあさんごっこの、どうぐみつけてくるっていったのに、家に、かえっちゃったんだもの」といいました。「きよつけて、かえるのよ…」と、わたしはいいました。そして、そろばんにかえりました。

一九七五（昭和５０）年度

十二月十五日（月）

学校の帰り、ほりこしさんと大つかのところで赤ちゃんに会った。ほりこしさん「ベロベロバー。」とかやって、あたしの方をゆびさして、「この人、ねずみ。」とかいってたから、あたしがほりこしさんゆびさして、赤ちゃんに「この人、デカよ。」とかいった。わたしが赤ちゃんに「ベロベロバー。」っていったら、赤ちゃん、しんけんに見てた。きょうは、よそのうちの、ほそい犬に、パンあげなかった。

一九七六（昭和５１）年度

十二月三日

きょうは、サリドマイドのたかしくんをみました。あざらしのてみたいにうまれていたときからなっていました。でもゆびは二本しかありませんでした。でもことばははっきりしています。げんきいっぱいです。わたしは「かわいそうだなあ。」といいました。おにい

ちゃんはなみだをながしていました。それまではすこしかわいそうだったけどこれからもたいへんです。たかしくんのゆびはちゅうがくせいなのにまだのびません。でもたかしくんは、そんなことにしないでがっこうにいきます。一ねんのときはみんなに、「あ、バルタンせいじんだ。」といわれたのにほんとにきにしませんでした。たかしくんよりがんばろうとおもいました。

一九七七（昭和52）年度

十二月七日　水曜日　はれ

きょうは、西はちでぼくとまさるくんとゆきおくんとやきゅうをやりました。ぼくとゆきおくんがくみました。ぼくはホームランをうちました。ぼくはこれでホームランをうったのは一九九本をうちました。でもきょうのホームランはすごかった。ボールがなくなりそうになりました。

一九七八（昭和53）年度

三月五日

学校から帰る道にぺんぺん草をみつけた。

わたしは春にぺんぺん草がさくのかと思いました。とても花がきれいなので、家まで一本もっていきました。家に帰ってからおかあさんに、

「ぺんぺん草もってきたよ。」

と、いった。わたしは、ただいまをわすれたと気がつきました。ぺんぺん草のことばっかり考えているからかな。

一九七九（昭和54）年度

「二月十日」

今日、おまわりさんがぼくの家へちょうさに来ました。ぼくはおまわりさんに、むせんを聞かせてもらいました。でも早口でよくしゃべるので、何が何だかさっぱりわかりませんでした。ちょうさがおわってからおまわりさんとなわとびをしました。おまわりさん

は一回もとべませんでした。

「前はもっとうまかったのにな。」

といってはずかしそうに帰って行きました。

一九八〇（昭和55）年度

三月三日

父さんに三年生の本を買ってもらいました。

それから、三年生のわだよしえちゃんとけんびきょうをつくりました。きょうは、ひなまつりなので母さんがケーキとカルピスを買ってきてくれました。夕ごはんを食べてから、一時間くらいたって、おねえちゃんとおにいちゃんとわたしでケーキを食べました。ショートケーキにたケーキです。とってもおいしかったです。

一九八一（昭和56）年度

おとなになったら

おとなになったら、ぼくは、レストランのコックさんになりたいです。そうしたら、ス

テーキとかスープとかいろいろなものを作ってみたいです。しゅぎょうをつんで、ベテランになりたいです。レストランには「なんでもや」という名まえをつけたいと思います。あと、金もちになりたいです。金もちになって、そう理大じんになりたいです。

一九八二（昭和57）年度

二月十四日（月）

学校から帰ってくると、えみ子ちゃんがきていました。二月十二日に、アメリカ大サーカスへ行ったことをはなしてあげました。えみ子ちゃんは、「おもしろかった、それともこわかった。」と聞きました。わたしは「少しこわかったよ。」といいました。はじめて、ホワイトタイガーを見ました。十七とうもでてきて、びっくりしました。

さるのなかまで一番らんぼうなマンドリルが五とうもでてきました。八才をすぎると、はなが赤くなってほっぺたが水色になります。

きれいでした。くうちゅうブランコをはらはらしてみていました。

一九八三（昭和５８）年度

二月十八日（土）

きょう、学校で雪だるまをつくりました。すな場でつくりました。はじめ、手でまるめてから、どんどんころがしました。大きくなっていきました。

大きい雪だるまがひとつ、小さい雪だるまがひとつできました。

一九八四（昭和５９）年度

十一月十八日

今日、学げい会で六年生もよくできていたし、四年生は、おもしろくできていて、はせ川くんがいったところがおかしくて、わたしは、わらってしまいました。二年生のどんぐりのたびのスモッグのところを、みんなおもわず「あはは。」とわらいました。でも、ほか

の人のげきもおもしろかった。でも、五年生がやったげきは、たのしくはないけど、とってもいいげきだった。なんで五年生のげきで、しんちゃんが出てこなかったのかなと思った。みんなの歌もうまくできていた。校長先生のはなしもながかった。一年生のはとってもいいアイデアだと思った。一年生のげきと三年生のげきは、みられなかったけど、六年生のとかみられたから、とてもうれしかった。おわりのことばがおわってやっとおわりになった。とってもたのしかったです。

一九八五（昭和６０）年度

二月二十一日（金）

まえの、金よう日に、ふくしかいかんのずこうで、レーシングカーをつくりました。じようずにできたのに、ともだちにそのレーシングカーをこわされた。くやしかった。ぶひんは、もうないからつくれない。でも、車の

タイヤだけがのこった。また、じぶんでもかたちをつくってさいしょからやりなおそう。

一九八六（昭和61）年度

十一月七日（金）

いとうくんとぼくであそびました。「本多くん」といったから、おかあさんが、「本多くん、いる。」っていったから、ぼくは、いとうくんがきたんだなあと思いました。ふたりでリスのチッチとふざけっこをしてチッチはようふくの中に入りたがりやだから、ぼくのようふくの中にさいしょ入って、つぎにいとうくんの中に入って大さわぎになってしまいました。